

今こそ求められる**減災対策**

都市の危機管理における 路面下空洞対策

オールジャパンで
国土強靱化を



レジリエンスジャパン
推進協議会

定員**200名様**

平成29年 **10/26** 木

開催日時 13:00～16:30(12:30受付開始)

開催場所 鉄鋼会館
〒103-0025東京都中央区茅場町3-2-10

総括・閉会 桑野 玲子 氏

東京大学生産技術研究所教授

「都市の危機管理における路面下空洞対策戦略会議」議長代理



今日1日、大学の先生方、それから自治体の皆様、そしてここに集まりの皆様、本当に活発な議論をどうもありがとうございました。今日の議論を振り返り、一言、総括させていただきます。

先ほど加藤先生がパネルディスカッションの際に「知る幸せ」「知らない幸せ」とおっしゃっていましたが、これまでの路面下空洞の世界というのは「知らない幸せ」の世界だと思っています。

私は地盤工学の専門家ですが、地面の下のことというのはなかなか社会に認知されない現象です。地震の液状化は少し前までは専門家しか知らない現象でしたが、今では小学生もおそらく地震の液状化という言葉を知っています。知ることによって認識が高まり、それに対応していこうという底上げの力も上がっていくと感じています。

路面下空洞の話も、くしくも昨年の博多を契機として皆様の関心がかなりそちらに向きましたが、これをマイナスの出来事ではなく、路面下空洞の対策に関するターニングポイ

ントととらえ、これからは「知る幸せ」に変えていけたらいいのではないかと考えています。

今、戦略会議とかワーキングの中でもいろいろと議論を重ねていますが、ワーキンググループの加藤主査から「維持管理は危機管理である」という話がありました。今回の取り組みを一言であらわすならば、そういうことだと思っています。今までは、維持管理と防災対策は全く別々のラインでやっていたことも、先ほど多目的化という話があったように、一緒に取り組んでいくことがこれから目指すべき道ではないかと、今日の議論を通して改めて思いました。

そんな中で、具体的な課題も自治体様からはいろいろ出てきています。例えば探査のときのデータの信頼性の話や予算の話、それから具体的にどういふふうに対策していったらいいかというガイドラインがまだ存在しないなど、そういった話も一つ一つ解決していけるように、これからの戦略会議の取り組みを実りのあるものにしていけたらいいと思っています。本日は本当にありがとうございました。